

る責任もなく、また被接種者側は訴訟を起こすことができない^{注6}。慢性の基礎疾患を有する者、妊婦、そしてその他の医師がワクチン接種を推奨する優先接種の対象者達は副反応の可能性を恐れてワクチンボイコットし始めた。14日に配布された追加の195,000回接種分は15日に廃棄される。政府は国民の3分1に行き渡るように150万回接種分のワクチンを800万ユーロ（10.4億円）の価格で購入した。しかし、使用されたのは15,000から20,000万回接種分のワクチンであり、792万ユーロ（8.2億円）（全体の99%）に相当するワクチンは医師のオフィスに眠っている。有効期限は6ヶ月なので、未使用のワクチンはオーストリアに送られて焼却される。これはクロアチアが焼却炉を持っていないためである。国家をあげてのA(H1N1)2009<単価ワクチン>接種キャンペーンは出だしからつまずいた^{78,79)}。クロアチアは数ヶ月前にノバルティスファーマと購入契約を交わした116万回接種分について、契約をキャンセルした。ノバルティスファーマとクロアチア免疫機関が交わした契約には、無料でキャンセルが可能な条約が含まれていたため、116万回接種分のキャンセルは748万ユーロ（9.7億円）の節約になった⁸⁰⁾。

(2) ベトナム

WHOはベトナムが2009年12月9日から2010年2月までの間に120万回接種分のGSKのArepanrix(Pandemrixのカナダ仕様)を受け取る予定であると発表、ベトナム保健省は、80万人~90万人の妊娠3ヶ月以上の妊婦と28万人の医療従事者が接種を受ける予定と発表した。WHOは類似の副反応がベトナムで発生してもGSK(11月にカナダで重症副反応が出たアジュバント添加A(H1N1)2009の製薬会社)は一切の責任を負わないと発表した。カナダ保健省のOliva氏^{注7)}はワクチンの提供を受けた全ての国は、いかなる重症の副反応が発生しても文句を言ってはならないのであると発言した。

ベトナム副大臣 Nguyen Thi Kim Tien氏はカナダで副反応として死亡例が出たことを引き合いに出し、公式のワクチン接種を開始す

る前に、臨床試験でワクチンの安全性と有効性を確認することが最優先課題であると表明⁸¹⁾。

g. 副反応が社会問題化しつつある段階

(1) ノルウェー

2009年11月22日 Pandemrixの接種が開始されて4週間が経過。死亡1例、副反応1,349例が報告された。副反応は殆どが局所反応、嘔吐、目まい、発熱であった。アナフィラキシーショックは2例、関節炎1例（小児）、けいれん2例、味覚ないしは嗅覚喪失が79例あった⁸²⁾。

(2) ポルトガル

ポルトガルでPandemrix接種を受けた妊婦が4人たて続けに自然流産したと報道された。Pandemrixには臨床試験が欠けており、EUならびにUS政府機関は生物兵器に分類しているといわれている⁸³⁻⁸⁴⁾ 注7)。

注6 「被接種者がインフォームドコンセントに署名していれば、政府は当該予防接種の事故に対して如何なる責任もなく、また被接種者側は訴訟を起こすことができない。」このようなインフォームドコンセントがEUの提唱により、2010/2011シーズンの不活化インフルエンザワクチン<3価ワクチン>の接種の際に導入されることになる。クロアチアの医薬局は即時型副反応の登録用紙と、極めて稀に起こりうる多くは稀な副反応の長大なりストを公表した。ワクチンはいよいよ被接種者が“at your own risk”で受ける時代に突入か⁷⁸⁾。

国民一人一人が病気で死ぬのか、ワクチンで死ぬのか、どちらかを選択しなければならない。所詮以前からそうであった。しかし、ヨーロッパ各国において海外アジュバント添加A(H1N1)2009<単価ワクチン>で多数の犠牲者が出ている状況を目の当たりにした今、ワクチンの安全神話を信じていたのが、春の霞のごとく消え去ったことにショックを受けたのは筆者だけであろうか。

注7 妊婦はインフルエンザのハイリスク者である^{85,86)}。わが国では、妊婦は新型インフルエンザワクチンの優先接種対象者であり、医療従事者の次で基礎疾患を有する者の最優先接種対象者より上位に位置している。しかし、妊婦に関しては、スエーデンでもアジュバント添加A(H1N1)2009<単価ワクチン>接種後の自然流産6例、胎児死亡1例報告